

わがむらの

昔ばなし

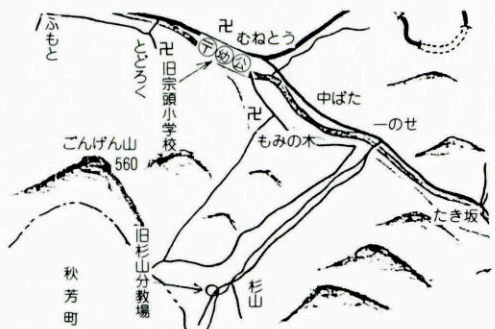
本校宗頭小学校杉山分教場

については余り知られていない。宗頭小学校が明治二十五年に開設されていてそれよりいつ頃分教場が出来たのかはつきりしない。本校も三十四年に高等科を併設して校名を宗頭尋常高等小学校と改称している。当時の村議会議員杉山出身の梶山重郎右衛門が大変努力致し杉山分教場設置にこぎつけられたと聞く。三十八年よりの記録に従って廃校までの跡をたどって見ることにする。

現在分教場の跡地は残っていて石の階段もそのままであり、この地区で鉱山採取したものと思われる。色々の滓石、近くに鉱石を掘った穴も見られる。

る。

次に三十八年の分教場の児童数を見ると単級で四年制となっており一年が二名、二年が三名、三年が二名、計七名となっている。三十九年度は十名、四十年度は九名、分教場廃止年は五名であった。又三十九年度の教員の数は尋常には本科止教員一、准教員一、代用教員一、又高等は正教員一の五名で全員男性教員であった。「准教員一名ハ分教場在勤ノモノナリ」と記されている。そこで明治四十年七月二十五日付の天津郡視学松本彦



次郎による「監督官巡視簿」を見ると「分教場ハ教場トシテノ形式備ハラズ此ノ儘ニハ存続セシメ難シ少ナクモ大算盤、計数器、細目、日課表、教科書、三四ノ教師ノ参考書位ハ備付ケザル可ラズ此ノ辺ノ設備成ラザル程ナレバ寧ロ廃校ヲ優レリトス管理者ニ請求ノ上早く解決スベシ此ノ項郡ヨリモ村長ニ注意スベシ」とある。それにより学校としては「分教場ノ児童僅カ五名ニ過ギズ然レドモ廃否未定ナリ存続スル以上ハ放任セズ将来及ブ限り管理者ト協議改善ヲ期ス」としている。遂に四十二年度に廃校に決意したようであったと思われる。又、学校林については四十二年度の学事年報に「本年度中分教場廃止ト共ニ同教場附属学校林ヲ本校ニ引キ上グルコトトナシタリ」と記されており本校の方においては「本年度末ニ於テ前年度ニ比シ反別及本数ノ増加シタルハ前年度迄分教場附属ノ学校林ヲ本校ニ合併シタルニヨル」とあり、因に本校の反別二町三二歩、本数六五三〇となっている。

この様な経路を辿り杉山分教場も廃止となった。尚、杉山には寺小屋もあった。しかしその寺小屋も大分前になくなって今も井上先生の

町民文芸

俳句

清風句会
(九月)

山中 重女
微風にも絶へず戦のき紅すすき
高崎はまき
野分にも雄々しく向ふ足場かな
藤沢 忘帰
飛び散りて一本すすき裸ん坊
上田 雪子
晩鐘や里の果てなる芒原
沖村美智子
野分来て菜園野菜土に伏す
上利ハナ子
朝風にゆられて招く花すき
宮垣 蕙女
旅衣野分の道に乱れつ、
岡 松月
ことのほか芒の上の夕日かな
斉藤 元
すすき満つ墓標古りけり兵の墓
選者 追吟
永田 石山
裏山の巖を一景に秋を住む

短歌

三隅短歌会
(九月)

伊藤 一郎
山伏の墓と伝ふる石塊を木洩れ
陽つつむ山里の秋
岡 松子
半被着て子供みこしに勢ぞろい
欢声あけて御社に入る
田中 朝子
とととと雨降る中に生き生き
と球を追いかけてステックを振る
堀 光太郎
始めての奥州路にきて松島の絶
景賞てつ佇ちつくしたり
白井 麻子
冬ごしのさき草咲きぬ鷺の羽嘴
さえきざみ翔つがにゆるる
田中 信江
ぬぐえども湧き出る汗をまたぬ
ぐう白き麴の香のみつる室
平川 育子
事繁き夏をおくりてつかの間の
休らいもなしグランドの子ら
山中 敬子
嫁ぎきて使ひし脱穀機が早や遺
物とて展示されたる歴史博物館

奥さんの墓だけがさびしく残されている。杉山地区も今から約二百年前鉱山で繁昌し、掘子が大勢居た様でありその人達の墓地は秋芳町大滝の近くに二ヶ所ある。その墓には何も記されていないので調査することも出来ない、その大

滝の上流の所に鉱石を杉山より持って行き鑄造した。今も地名多々良として残っている。その他杉山には鉱山にまつわる地名等が多くあるがそうした面影もなく殆ど此の世から忘れられて来ている。

滝坂 栗畑 貞太郎